

# プランター花壇

先月、五月晴れのなか、親元を離れ長期入院治療に励んでいる小児病棟の学童期の子ども達が集まって、研修棟渡り廊下付近のスペースに『プランター花壇』を造りました。

このプランター花壇が造られたきっかけは、入院治療の生活について話し合う「子ども全体会議」にて、子ども達から日々取り組んでいる運動療法や憩い面に関する議題が挙がり、次のような気持ちが聞かれたからです。

「病棟のなかだけでなく、外でも運動ができないかな」「他病棟の人や外来に来た人とか、みんなの憩いの場として、花壇や休憩できるベンチが外にあるといいな」「“ふれあいの森”を復活させることはできないかな？」などです。

そして、子ども達一人ひとりの想いを形に表すためグループワークを行い、どうすれば自分達の想いが実現するか、要望するだけでなく自分達でできることはないかななどを考え、院長先生宛に手紙を書いてまとめました。



グループワークの様子



院長先生への手紙

その子ども達からの手紙を読んで下さった院長先生をはじめ、病院関係者のみな様のご理解とご協力のもと、今回、憩い面の充実として『プランター花壇』を完成させることができました。

プランター花壇造りでは、予めスタッフが役割分担しておいたこと以外にも、体力のある子は25ℓの培養土の袋など重たいものを運んでくれたり、自宅でもガーデニングをしている子は花苗をポットから抜く方法を知らない子に教えてくれたり、水汲みや花苗の種類毎にネーム

プレートを挿してくれたり、どの子どもも率先して自分にできることを見つけては、協力し合って作業を進めてくれていました。

完成したプランター花壇の配置も、観賞用という視点を忘れず、見栄えを何度も確認しては、プランターの向きや角度を調整してくれる子どももいました。

この『プランター花壇』により、三重病院がより美しく賑やかになり、みんなのこころの安らぎや潤いの場所になるばかりでなく、「きれいなお花だね。何て言うお花かな?」、「可愛い花壇だね」などと病院に関わる人達同士のコミュニケーションの場ともなってくれることを、子ども達も療育スタッフも願っています。

そのためにも、色とりどりのきれいなお花がいつまでも咲き続けるように、新たに設けた「水やり当番」制にて、毎日子ども達の手で水やりや草取りなど花壇の整備・管理を継続しています。



作業中の様子



プランター花壇

また近々、子ども達でアイデアを出して考えた『プランター花壇』のネーミングの看板作りにも取り掛かる予定です。

是非、外来の待ち時間や入院治療の合間、休憩時間の際にでも、子ども達が手造りした『プランター花壇』を観賞していただけたらと思います。(療育指導室 保育士 伊藤 真衣)

## 新任医師紹介



●小児科

伊藤 卓洋 先生

はじめまして

- あ 秋田県から来ました
  - い いとうたかひろ と申します
  - う うし年生まれの29歳
  - え 縁あって三重県へ(貝沼先生とは15年の付き合いです)
  - お 男の子(2歳)がいます(妻もいます)
- 毎日いろいろなことにカルチャーショックを受けていますが、少しでも皆様のお役に立てるよう精一杯頑張ります。

[追記]

生まれ:愛知県犬山市  
出身大学:秋田大学(平成21年度卒)  
学生時代:ハンドボール部と某日本料理店での下積み生活  
趣味:麻雀(勉強中)  
座右の銘:やるかやらないか

今後とも宜しく  
お願いします。

